

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	鷺巣 奈保子 【人間発達科学専攻 2013年度生】	
論文題目	感謝, 心理的負債感, 「すまない」感情が 心理的 well-being に与える影響とそのメカニズム の検討	本論文では、感情心理学の立場から他者からの向社会的行動の受け手に生じる感謝感情をテーマとし、純粋な感謝（恩恵の受領に対する肯定的な感情）とともに生起する心理的負債感（返報義務感）と「すまない」という感情（相手の負担への罪悪感・詫びの気持ち）の相互の関係性及びそれらが個人の心理的 well-being に与える影響性とそのメカニズムについて実証的な探求がなされた。
審査委員	(主 査) 教授 菅原 ますみ	本論文に対する審査は 3 回おこなわれ、第 1 回目の審査（令和 1 年 7 月 10 日）では、予備調査を含め 6 つの実証研究を通して、感謝概念を構成する純粋な感謝・心理的負債感・「すまない」感情の 3 要素の共通点および相違点を明らかにするとともに、各要素がどのようなメカニズムを通して個人の心理的 well-being につながるのか、対人的志向性の媒介機能に注目したモデル分析によって一定の結論が得られたこと、また、「すまない」感情が純粋な感謝に転換されるメカニズムとしてポジティブリフレーミングの効果に注目した点も独自性の高いものとして評価されたが、対人的志向性やポジティブリフレーミング等重要概念に関する説明が不足していること、章立ての構成に工夫が必要であること等が指摘された。第 2 回目の審査（令和 1 年 8 月 7 日）では申請者によるプレゼンテーションと論文の修正箇所について審査がおこなわれた、概ね妥当な内容であることが確認された。公開審査（令和 1 年 9 月 4 日）では適切なプレゼンテーションおよび質疑応答がなされ、続いて開催された最終審査委員会において、論文について指摘された修正が適切になされ、また公開発表ならびにその後の質疑応答においても満足すべき応答が得られたことから、申請者の研究に対する理解力と学力が十分であるものと判定された。
	(副 査) 教授 大森 美香	
	(副 査) 教授 石口 彰	
	(審査委員) 准教授 上原 泉	
	(審査委員) 教授 岩壁 茂	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ <input checked="" type="radio"/> 否 ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある <input checked="" type="radio"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	以上の結果から、本審査委員会は、本論文が人間文化創成科学研究科の学位、博士（人文科学）（Ph. D. in Psychology）に値するものと全会一致で判断し、合格とした。